3. 地域の温かさで学習の楽しさを伝える寺子屋

グループ名寺子屋サポート隊代表者須藤芳文

① 活動の目的

寺子屋は単なる学習支援ではなく、地域の宝であるすべての子どもたちに等しく学びの場を提供し、地域一体で子どもたちを見守り育てることを目的として活動している。そして、寺子屋は子どもと地域の住民を繋ぐ居場所であり、サポート隊 (スタッフ)としても、地域社会に貢献できる場、生きがい・仲間づくりの場となっている。

事業目的は、

- (1) 全ての子どもたちに等しく学びの場を提供する
- (2) 家庭学習の習慣が身に付くよう勉強の楽しさを教える
- (3) 子どもをとおして人と人との"つながり"を再構築する
- (4) サポート隊は子ども一人ひとりのことをよく理解するよう努めるとともに、誰もが 地域社会に貢献できる場とする としている。

2 活動概要

鷹栖町在住又は保護者が鷹栖町内で勤務しているなど、鷹栖町と関わりのある小学1~6年生を対象とし、町内2ヵ所(北野地区・鷹栖地区)で無料にて開催している。内容は、子どもが持参した学校の教材や宿題、家庭学習のドリルなどを活用して、サポート隊は、子どもたちが自分で考え答えを導き出せるよう、わからない問題の考え方やヒントを教えながら見守る学習支援を行う。

概要と平成29年度実績は以下の通りである。

☆概要

【平日の放課後】きたの de 寺子屋:第1・3月曜日 16:30~18:00

たかす de 寺子屋:第2・4月曜日 16:30~18:00

【夏・冬休み】 きたの de 寺子屋:休みの間に6回程度 9:00~12:00

たかす de 寺子屋:休みの間に3回程度 9:30~11:30

☆平成29年度実績

実施回数	65回(北野37回/鷹栖25回)		
参加者 (子ども)	541名(北野336名/鷹栖205名)		
参加者 (サポート隊)	356名(北野276名/80名)		

学習の後は、スタッフの特技を活かしたお茶体験や百人一首、プチ実験(べっこうあめ作り、プラ板ストラップ作り、クリスマスカード作り等)、活動場所である商業施設にて100円買い物体験などレクリエーション活動を実施している。

地域で子どもたちを見守り育てる一助となればと思い、地域住民有志であるサポート隊と社会福祉協議会の協力をいただき運営しており、サポート隊も当初は元教員つながりで構成されていたが、地域住民へのスタッフ募集周知や地域資源を活かした連携で鷹栖高校や北海道教育大学旭川校と寺子屋を繋げたことによって、スタッフの固定化や高齢化による存続の危機を未然に防ぐ取り組みを行っている。

活動拠点は、社会福祉法人さつき会が運営する、小規模多機能ホーム ぬくもりの家えん 内にある地域交流スペース・介護予防拠点 ふれあい茶ろんてくてく と、同会が運営する小規模多機能ホーム 鷹栖なごみの家 内にある、地域交流スペースに構えることで、会場使用料が無料になるだけではなく、子どもたちと通所されている高齢者とのふれあい交流や、地域に開かれた施設づくりの一翼も担うことができている。

また、商業施設のDa.マルシェ北野店内にある あったかす北野サロンスペース でも行うことにより、寺子屋は保護者の送迎を原則としていることから、保護者は必然的に商業施設内に足を運び、送迎ついでに買い物を行ったり、店舗前に車が多く止まることで他の客への呼び水となるなど、住民の購買力も高めており、相乗効果が生まれている。

【 夏休み / 地域交流スペース・介護予防拠点 ふれあい茶ろん てくてく にて 】







← 鷹栖高校生が勉強を教える様子

【 放課後 / 鷹栖なごみの家 地域交流スペースにて 】



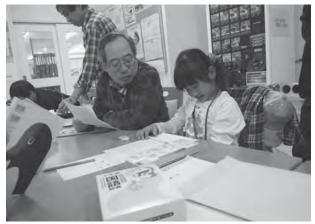




← 大学生が勉強を教える様子

【 放課後 / あったかす北野サロンスペースにて 】









【 学習の後のレクリエーションタイム 】







↑百人一首体験



↑クリスマスカード作り



↑100円買い物体験

③ 決算報告書

収	入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支	出	ボランティア活動用保険料	5,900円
		(100円×17名、350円×12名)	
		サポートスタッフ 交通費助成費	104,000円
	通信運搬費		5 1 0円
		事業費 お菓子代	19,435円
		合 計	129,845円